

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



夕暮れの黄土高原。家々に灯がともりはじめる。天鎮県趙家溝郷柳子堡村にて (撮影: 橋本紘二)

### Contents

自然と親しむ会、講演会報告 .....	P 2
会員からのメッセージ .....	P 3
●シンポジウム『黄土高原・森林再生への道』 .....	P 4
樹木との出会い・人との出会い .....	P 7

2000.7

74

## 第6回会員総会報告

6月17日(土)午後、大阪市立弁天町市民学習センターにて、緑の地球ネットワーク第6回会員総会と、総会に先立ってシンポジウム『黄土高原・森林再生への道～21世紀にむかって』が開催されました。

シンポジウムにはおよそ65名が参加、4名のパネリストそれぞれの立場から協力の現状、植林地の調査結果、緑化の見込み、NGOの会員とは、といった内容の発言に聞き入り、質疑もかわりました。簡単な要約を4頁から載せ

ていますので、ご覧ください。

会員総会は会員総数587名のうち、出席46名、書面による参加225名、委任状提出79名、合計350名の参加で成立しました。1999年度の事業・会計・監査報告、2000年度の事業計画・予算、定款改正の承認と、新役員の選出(3頁に名簿を掲載)をおこない、終了後は懇親会で親睦を深めました。

## 自然のおいしさを満喫

皆木 晃 (GEN会員)

ゼンマイ。ノビルは天ぷらむきではな

さる5月14日、大阪府高槻市で行われた「GEN自然と親しむ・野草を食べよう」に参加しました。JR高槻駅に集合、バスで「上の口」まで行き、地元の小白方さんから諸注意を聞き芥川沿いに開けた野辺を北に向かって歩き始めました。参加者が40人を超えていて全ての説明を聞きとれたとは言えませんが、GEN代表の立花先生に道端の草花や畑の野菜、庭に植えてある木、まわりの山に生えている樹木や竹林の説明をうけながらのんびり歩きました。

途中、寒天の作業小屋で高槻の寒天作りについて地元農家の方に話をお聞きしている時、突然ヒョウまじりの雷雨となったのですが、小屋の中にいた私たちは誰1人雨に濡れることなく“予定通りの雨”も難なくクリア。雨が上がった後再び歩き始めました。

目的の天ぷらにする野草も、立花先生に食べられるかどうかを聞きながら道端の野草をビニール袋に入れました。高槻駅から車で20分くらいの距離で、随分といろいろな植物や生き物がいるものです。少し山に入った沢にはサワガニもいて、これも食材になりました。

予定より少し遅れて、天ぷら鍋3つでタケノコ、ノビル、ギンギシ、ヨモギ、ドクダミ、ゼンマイなどを天ぷらにしました。苦味や生臭さがあるのかと思っていたのですが、意外にクセがなく美味しくいただきました。天つゆなどにつけないでそのまま食べたので素材の美味しさを直接味わえ、野草の味がダイレクトに伝わってきたのが嬉しく思いました。個人的なイチ押しは

いかもかもしれません。サワガニもカリッと歯触りよく揚がっていて人気がありました。改めて身近にある自然の美味しさを知ることができた1日でした。

### 小川房人さん講演会

### 『森林が環境に果たす役割』に参加して

南 朋子 (大学生)

5月23日、アピオ大阪にて、GEN顧問の小川房人さんによる講演会『森林が環境に果たす役割』が開かれ、遠方からの方もふくめて65名の参加者を集めました。世界各地の森林のスライドを駆使しての充実した内容でした。



「森林を守る」「環境を守る」といっても、あらゆる角度から判断しなければならぬ。これが、講演会に参加して、私がおもったことだ。これは今年の春のワーキングツアーに参加したときも感じたが、環境問題に取りくむとき、政治、経済、地理、地域住民の状況などを把握したうえでの対策が要求される。

大学で森林について学んではいらぬものの、それはミクロな森林であり、こういったマクロな観点で森林をみることによって、私が大学で勉強すべきことは何かをあらためて考えさせられた。いま、なにが出来るか、なにをすべきかを、森林について学んでいない、より多くの人へもうたえかけの力をもつのではないだろうか。

講演会で印象に残ったことをふたつあげるなら、ひとつめは、日本人の多

くは木が生えることに何の疑問も感じない、という言葉である。確かに、私自身も、なぜ木が生えるかを考えることは皆無とわかっていい。日本の自然の特異性を理解していなければ、黄土高原に植樹する意味も理解できない。

ふたつめは、自然保護の南北問題についてである。先進国の開発のツケを発展途上国におしつける熱帯雨林保護の主張は、開発のメリットを犠牲にしても森林を保護するという努力が必要である。世界の環境にとって重要な森林であっても、一次的には地域住民の貴重な財産である。この問題からわかるように、環境と切り離すことができない問題がたくさんある。森林という環境問題のひとつの分野に取りくむものとして、これからはより広い視点で考えられるようになりたい、そして、こういった講演会に参加することによって、多くを吸収したいと考えている。

### 助成が決まりました

黄土高原緑化協力活動に対して、郵政省国際ボランティア貯金の配分が決まりました。金額は7,517,000円です。



# GREEN ECHO



第6会会員総会に、たくさんの質問、メッセージをいただきました。質問にお答えし、また、メッセージのほんの一部をみなさんにご紹介します。

●事業準備支出はどういう内容ですか？ (T)

◆将来、活動をより充実していくための積立金のようなものです。

●年会費は銀行振込できますか(郵便局に行く時間がない場合)？ (S)

◆できます。口座は下記のとおりです。  
三和銀行阪急梅田北支店 普通  
5284852 口座名 緑の地球ネットワーク

●決算の備考欄に人件費のところでは何人に支払っているのか今後記載してほしい。会のスタッフが何人くらいいるのか知りたいので。(O)

◆99年度は3人+1人×5か月でした。2000年度予算は4人分です。

●2000年度予算から“人件費”を“賃金”に変えた理由は？ 助成金が増えれば増えるだけ、助成金ではまかなえない管理費が増大して、職員への負担が限界を越えます。第6回総会において討議事項として、職員待遇の改善チーム作りを提案します。(T)

◆人件費には賃金と福利厚生費が含まれていたのですが、2000年度予算からそれらを別項目にしました。職員賃

金については、総会においても同趣旨の発言があり、世話人会のなかに職員賃金検討の担当者をもうけました。

●友人にすすめられてほんのささやかな応援を始めてから早、8年余り経ちました。はじめは本当に続くのかしらと思っておりましたが、地球の未来のためにと真摯に植林に取り組んでこられた若いみなさまがたに今、あらためて心からエールを送ります。(Y)

●困難多いと思いますが着実に。私は会員である以上のことは何もできませんが片隅でみまもっています。(O)

◆GENの活動をささえているのは、こうしたたくさんの会員さんたちです。これからもよろしくお祈りします！

●従来、中国に写真などを送ってもほとんど返事がこないことを多くの人が体験しているでしょう。これは、中国からの外国郵便料金(日本へは8.20元?)が大きな負担になっているためだと思います。こちらから手紙を出すとき、返信用の切手などを同封すれば、中国側の返信の負担はなくなります。

そこで、GENが中国で切手を購入して、返信用郵便セット(切手、封筒、便箋)を発売したらどうでしょう。(I)

◆切手だけでいいから、ツアー参加者の中で、誰か担当してくれないかなあ。

●黄土高原便りを毎回楽しみにしております。秋田は今、良い気候です。ブナ林、スギ林等に入り、黄土高原を思うとこの天与の好条件を生かせずに苦悩する日本の森林・林業の姿が滑稽にすら覚えます。(K)

●GENの運営ご苦労様です。われわれ戦前派(戦中育ち)として少しでも、何らかの中国に対するつぐないとしてこの事業に参加しております。何もしていなかった時に比べて、中国国民に対する考えが変わりました。住む国は違ってもやはり同じ人間だと思えるようになりました。(M)

●先週末までコロラド、アリゾナ、ニ

ューメキシコに行ってきました。アリゾナ、ニューメキシコ、コロラドですが、東海岸の湿気が多く寒い地域から移る人が多く、5~10年前まで湖だったところが干上がっています。西海岸は乾燥がすすみ、そこへ人が早すぎるスピードで移住し、地下水を汲み上げ、ますます乾燥しているようです。

アメリカの方は“がまんする”ことがあまりなく、ぜいたくになる一方で、そのうち西海岸全体が砂漠になるのでは……と思います。これ以上、負の遺産を残したくないものです。(Y)

●「継続は力なり」協力をさせていただいて5年になりました。ツアーに参加したメンバーの点が線になってきつつあります。わたしたちは、この取り組みから、これからもたくさんの気づきを得られると考えています。(N)

●ただいま“純”木の家を新築するため苦闘中です。自分の持山を切って使うむずかしさがこたえます。十数年前まではこんなに苦労しなくてもできたのに!! 日本の木材の流通システムが十数年でこんなに変わるとは。これでは山の木も手入れされなくなります。

黄土高原がなつかしく思われる今日このごろです。(H)

●山西省における鉄鋼業、コークス製造業による環境破壊に注目し、国際学術研究をすすめています。息の長い活動を願う。ネットワーク活動に仙台からエールを送る。(T)

●こんにちは。お久しぶりです。私は今、環境アセスメントの調査員をしています。毎日、自然の中で仕事をしています。本当に自然はすばらしいですね。一緒に地球の緑を守っていきましょうね。お体を大切に、がんばってください。(O)

●みなさま、ご苦労さまです。新しい取り組みもいろいろと計画され、期待がもてます。大変でしょうががんばってください。同じアジアの空の下より応援しています。(F)

## 【GEN 第6期役員名簿】

顧問 石原 忠一/小川 房人/  
遠田 宏

代表 立花 吉茂

副代表 西山 五郎/有元 幹明

事務局長 高見 邦雄

会計 太田 房子

世話人 竹中 隆/前川 宏/向

川 郁郎/武田 繁典/

川島 和義/巽 良生/上

田 信/深尾 葉子/山永

ユカリ/東川 貴子/嶋

田 光雄/長坂 健司/

工藤 寛之/紙谷周三

郎/富樫 智/宮崎いず

み/倉持 幸恵

監査 松橋 二郎/早草 晋

# シンポジウム『黄土高原・森林再生への道 ～21世紀にむかって』

会員総会に先立つシンポジウムでは、4人のパネリスト独自の視点から発言がありました。とても紙面にはおさまりきらないので、遠田宏さんのデータも加えた完全版を制作予定です。ご希望の方はGEN 事務所までご連絡ください。(文責＝編集部)



植林について。去年渾源県呉城郷のアンズが大豊作で、郷は大きな収入を得た。そこで、各地で大規模にアンズを植える動きがでてきたことに疑問を出した。呉城郷は成功したが、その陰にはたくさんの失敗がある。苗木の質に問題があったり農民に意気込みと自信がなかったりで失敗した。

それらの問題を解決しないで同じことをやれば、また失敗する。最初は小さく始めて、経験と自信をつけてから広げるべきだということです。

4点目は、大同はいま観光に力を入れていて、雲崗石窟の周りの緑化に力をいれています。しかし、石山に穴を掘って、よそから土を運んで木を植えるのは、あまりにロスが大きい、そんな無理をする必要があるか、検討すべきだということです。

5番目は、極端に条件の悪い村は、国費で人を移住させるべきではないか、とくに自然に森林ができるようなところは村ごと移転を考えるべきだ、ということです。人の圧力を減らせば、人力で木を植えずとも、自然に森林が育つ条件がある、これを試みるべきだ、というんですね。

6番目に、林業技術者を養成するための機関をつくるべきだ、お金はかかるが、いまお金と労力をかけて木を植えている、その一部をまわして技術者を養成すれば、効率が良くなるはずだ、ということです。

7番目は管理の問題。実際に緑化に取り組むと、問題はすべて植えた後に起こる。放牧の家畜に食害されたり、人間に引き抜かれたり、人間にからんで問題が起きるので、緑化はなぜ必要かを理解してもらおう。これが林業関係者のもっとも大事な仕事だという認識が必要で、ただ植えることが緑化だと

考えていると、いくら木を植えても育たない。緑化に対する意識の向上を緑化の重要な問題として考えるべきだということです。

8番目に、荒れ山の緑化を計画するとき、草を茂らせてから木を植えるのがいい、喬木と灌木を結合すべきであり、なかでも灌木を優先すべきである。

そのような発言をしたということです。

このなかには、市が中心になってすすめている事業への批判もあり、相当の勇気があることですし、聞いて私もびっくりしました。しかも私たちがこのかんずっと考えてきたこと、話し合ってきたことを彼なりにまとめているわけです。熟慮されているとわかっていい。私たちの協力活動のレベルを象徴する話だと考えて、紹介しました。

## ●遇駕山のマツ造林地調査から

遠田 宏 (GEN 顧問)

いま大同で山に植えているのは、おもにアブラマツとモンゴリマツです。

アブラマツは山西省に自然にあります。モンゴリマツは、東北の大興安嶺あたりが主な産地で、これを山西省にもつてくるとどうなるか結論はでていません。この2種類のマツだって、大きな面積に植えると、さっきお話があった小老樹のようなことが起きないとはかぎりません。

小老樹と同じ轍をふみたくないなら、調査の必要がある。われわれが植えたものは1mとか50cmと小さくて、調査の対象になりません。今日お話をする遇駕山は、中国が85年から植えていて、もう15年たった。よく育っているように見えますが、小老樹と同じ轍をふむのならそろそろ表面にでてくるのでは



## ●祁学峰の発言から

高見 邦雄 (GEN 事務局長)

大同市青年連合会の祁学峰主席と、この春こんな話をしました。彼は大同市人民代表大会、日本でいえば市議会の議員なんですけど、会議で林業が議題になったときにこんな発言をしたそうです。

第1は、大同市の森林被覆率は18%と公表されているが、実際は8%でもまだ水増しがあるんじゃないか、というもの。

2番目は、小老樹の改造の問題です。50年代から植えてきたポプラが、最初はよく育ったけど、大きくなると水の必要量がふえ、隣同士で水を奪い合う状態になり、そんなときに早魃がくると先端が枯れ、翌年は枝が幹に変わって伸びる。それを繰り返すうちに、ぐにゃぐにゃになり、地元の人は小老樹と呼んでいます。いまそれをマツに植え替えているんですが、祁学峰はそれに意見をだした。小老樹の改造はもっともだが、ポプラを全部伐って、小さなマツ苗を植えても成長に時間がかかる。小老樹も風砂を防いでいるんだから、環境の面で不経済だということです。



3点目は、大面積のアンズの



敗します。だから、本命をみつけるまでは、まず草や灌木からはじめて、本命らしいものを混ざって、いろんなものを植えたり、あるときは枝を切って蒸発を防ぐ作業もいるかもしれない。それにはデータがいります。調べるとなると、マツや小老樹などほんの数種類の植物でもこういう状況です。植物園にたくさんの種類を集めて、これはどうだ、あれはどうだとやると、いくらでも仕事があって、終わりがありません。

同じアブラマツでも、いろいろな場所から植物園に集めてくると、そのなかには山西省である程度育つようなDNAをもったものがあるかもしれない。そのためにはたくさんの種を蒔いて、育苗していかなければいけない。苗をつくって、本植えるまでのあいだにセレクションできるわけです。そういう目をもった技術者を早く養成したいというのが、ぼくの考えです。

### ●自省、自覚、自律を促すNGO

上田 信 (GEN 世話人)



大学で学生たちにGENの話をする、なぜわざわざ日本人が中国に行って緑化をするのかとよく聞かれます。私自身は中国が

研究の対象で、GENで行くとディープな中国の農村に触れられるわけですが、中国に関心がない学生にそう聞かれると、答えに窮していた。その答えを、ようやくおぼろげながらつかめた気がしています。

今春のワーキングツアーには、1歳半の娘を連れていきました。最年少の参加者です。娘の名前は「みづか」といいます。漢字で書いたら自分の自です。なぜかという、昔訪ねたお宅でこんな話を聞きました。その家には小さな浄化槽がある。お風呂やトイレの排水を浄化して、ほとんど透明になった水をもう1度トイレにつかっている。

なるほどと思ったのは、浄化槽をきっかけに自分の生活を考えるようにな

った。たとえば漂白剤を流すと、浄化槽のなかで有機物を分解して水をきれいにしている微生物が死んでしまう。とたんに浄化槽の機能が悪くなって、トイレを流すと臭い水が出てくる。しまった、漂白剤を使うのをやめよう。そんなふうに、自分で考えて、生活を工夫するようになったというんです。

自分の行為が、あるシステムをとってもう1度自分に戻ってくるしくみができる、自分自身がその大きなしくみの中の一部を構成しているという自覚がでてくる。その自覚がでてくると、システムをうまく動かすために自分自身の行動を律していく。自分の行為が自分に戻ってくる、自省ですね、そして自分が大きなしくみの中の一部であるという自覚を持つ。自省と自覚をもって、誰に言われることなく自分自身の行動を律していく。自省、自覚、自律。これが、私自身の人生の標語みたいなもので、その自という言葉から娘の名前をとりました。

広霊県の楊窰村で、4月のはじめのことです。まだ朝は寒くて、村のおじいさんに「やあ、寒いですね」と声をかけたら、「全然寒くない、子どものころはもっと寒かった」と言うんです。そして「やっぱり地球温暖化というのが影響しているのかね」と。ああ、農村の老人でも地球温暖化という言葉を知ってて、いま暖かいという状況をそう解釈しているのだと思いました。

私たちは日本でたくさんのCO2を出して生活しています。日本は恵まれた環境にあるので、その被害はなかなか見えない。しかし、沙漠化の最前線

ある黄土高原では、人間の生活に直接影響があります。私自身、黄土高原に行ってはじめて、自分が日本でCO2を出していることが、こんなかたちで人類にはねかえってくるのかもしれないという自省を得ることができた。そうして、抽象的にしか考えられなかった地球温暖化が、わりと実感をもって語れるようになりました。だからといってCO2を出さないわけにはいかないけれど、なんとかしようと思うし、行動が変わってきます。GENの活動のポイントは、そのへんにあると思います。

NGOには3つの形があるそうです。ひとつは代理型で、自分がやれないことを代わりにやってくれる。グリーンピースがその代表です。ふたつめは仲介型。たとえばフォスタープラン、里親制度で、NGOが間に入って、自分が寄付したお金を貧困地域の子どもに教育資金として届けてくれる。そしてその子どもから近況報告の手紙がくる。そういうことを仲介するNGOです。

GENの最大の特色であり、面白いところは、そのふたつとは違う、参加型、ということだと思います。実際に現地に行くワーキングツアーが、大きな比重を占めている。そこでさまざまな人によって違いますけれど、何かしら発見することがある。それが運動の基軸になる。なかなか現地に行けない人も、その参加した人に話を聞いたりすることが大きな意義をもってくる。そういうことだと思います。

GENが、その参加型ということを中心に、自省、自覚、自律ができていけば、と感じています。

## 本の紹介

「黄土高原の村ー音・空間・社会」深尾葉子・井口淳子・栗原慎治著 発行：古今書院 定価：2,600円(税別)

黄土高原は日本の約1.6倍の面積をもち、東は山西省大同から西は甘肅省蘭州盆地にまで及ぶそうです。

この本は1990年から約10年間、3人の日本人研究者が西安の北約400km、陝西省米脂県楊家溝郷という村で共同調査をおこなった記録。3人の研究分

野はそれぞれ民族音楽、建築学、歴史・人文学と異なり、章を分担して執筆されています。全体に図や写真、コラムがふんだんにちりばめられていて、読者も屋下がりな静かな村を散歩しているような気分になるかもしれません。

あ、これは大同といつしょ、ここはずいぶん違うなあ、といつの間にか、訪問した大同の村と比べながら読んでしまいます。黄土高原の時間と空間の広がりを感じさせてくれる1冊です。

※GEN事務所でも取り扱っています。

## 樹木との出会い・人との出会い

村瀬 直子 (大学生)



「自分の木」はなんという木だろう？

6月2日から2泊3日で、関東プラン主催の「緑化リーダー養成講座」が開かれました。場所は八王子大学セミナーハウス、参加者は22名。揃ったところで、自己紹介。それも、人生のなかで印象づけられる樹木との出会いを通して語ります。小学校の校庭のメタセコイヤ、中国留学中で出会った大木の話など。集った人たちに、いったん自分のもとに問題をひきつけて考えてもらう契機となり、同じ土俵の上に立つという姿勢がうまれました。

翌日は近くの長沼公園の雑木林のなかで。上田先生「自分にしっくりなじむ木を探し、愛称を付けて」。参加者の1人が「17歳」という愛称をつけました。17歳という人は何を感じるのでしょうか。その木は天に向かってまっすぐに伸びることができず、右へ左へくねりながら成長しています。「どうしてそうなったか、木の立場になってみなさい」と言われました。木を観察することは、その木が生えている土地について考えるということ。木

から人が、歴史が、そして自分が見えてきます。午後は「自分の木」が何なのか、検索図鑑を頼りに調べます。植物の分類の方法、見分ける際のポイントが分かってきます。グループで互いに助け合いながらの作業で、勉強が不得手な人も大丈夫。

そして最終日、グループに分かれて緑化プランを作成するというワークショップがおこなわれました。

年齢も職業も違う人と意見を交わし、緑化と樹木という土台を基本として、「ものを考えるときの最も基礎にある」ことを「体で感じるきっかけ」になったように思いました。

秋にはまた「養成講座」が企画されています。11月18～19日の一泊で、場所は八王子。ドングリ集めなどをおこないます。興味のある方は上田信 (e-mail:ueda@rikkyo.ac.jp fax:03-3985-4790) までお問い合わせください。

## アイデア募集！ 新しい協力に愛称を

ツアー参加者の多くにとって、大同は懐かしく親しみを感じるところですが、お仕事や家庭の事情で現地に行けない人には、やっぱり遠いところですよ。そんな方にも大同を少し近くに感じていただける、新しい協力プランを考え、9月から開始予定です。

お寄せいただいた緑化基金を、特定の場所に投入して、協力者の名前を刻んだ碑を建てます。1ha単位で、苗木代、整地費用、補植や5年間の管理費用まで含んで5万円です。入学、卒業、成人、就職、結婚、誕生など、人生の節目の記念に、あるいはご家族やお友達のグループで。協力者には5年間、毎年現地の写真をお届けします。

この協力プランの愛称を募集しています。8月31日までに、郵便・FAX・e-mailでGEN事務所まで。

## “チコロナイ” 現地宿泊研修会のご案内

### 【問い合わせ・申込先】

『ナショナルトラスト・チコロナイ』 〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 貝澤耕一方 TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991

『チコロナイ友の会』 〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷68-9 武田繁典方 TEL./FAX. 01457-2-2122 e-mail: vyn01123@nifty.ne.jp

ホームページ <http://homepage1.nifty.com/tkd-hp/main.html>

### 第7回二風谷ワーキングツアー

●日時：8月18日15時JR富良野駅集合～23日12時二風谷解散

●場所：北海道富良野市、沙流郡平取町二風谷

●内容：富良野周辺の原生林、チコロナイの森、博物館の見学。山、畑仕事。アイヌの木彫り、刺しゅう、踊り、アイヌ語体験。チブサンケ参加、交流など。1泊はキャンプ。

●費用：5万円（集合から解散までの全費用。チコロナイ友の会会費、保険料を含む）

●募集：15人（全行程に参加できる人。2回目以降の参加者は部分参加も可）

●締め切り：7月31日（ただし、定員に達し次第締め切ります）

### 第5回二風谷子供キャンプ

●日時：8月12日13時～16日13時（千歳空港集合、解散。大阪から引率可）

●場所：北海道沙流郡平取町二風谷

●内容：2泊は民宿、2泊はキャンプ。山歩き、川遊び、山、畑仕事体験、自炊、キャンプファイアー。アイヌの木彫り、刺しゅう、踊り体験。博物館見学など。

●費用：35,000円（集合から解散まで全費用。チコロナイ友の会会費、保険料を含む）

●募集：小学5年生～中学3年生15人（小学4年以下は保護者同伴で、高校生以上はスタッフとして参加可）

●締め切り：7月31日（ただし、定員に達し次第締め切ります）

予告

### 石弘之さん講演会

岩波新書『地球環境報告』でいち早く「黄河断流」を報じ、世界の環境問題の現状に詳しい石弘之さんに、中国の環境問題について講演していただきます。まだ少し先ですが、ぜひ予定に入れておいてください。

●日時：11月29日（水）18時30分～21時（予定）

●場所：クレオ大阪西（JR環状線、阪神「西九条」駅下車徒歩3分）

●参加費：一般1,000円、GEN会員および学生700円



**どうする代替フロン！  
強力な温室効果ガス**

オゾン層を守るために開発された代替フロンですが.....？

- 日時：8月3日（木）18時30分～21時
- 場所：ウィングス京都（京都市中京区東洞院六角下ル、地下鉄「四条」駅、阪急「烏丸」駅より徒歩10分）
- 参加費：一般500円
- 講師：西園大実氏（ストップ・フロン全国連絡会、群馬大学助教授）、野口陽氏（滋賀県電器商業組合環境委員長）
- 主催：気候ネットワーク（次項参照）

**自然エネルギー学校・京都  
受講生募集**

太陽光、バイオマス、風力.....自然エネルギーについて、『実践、体験、創造』中心のワークショップ形式で学びます。

- 日程：9月～2000年2月（全7回）
- 定員：30名（先着順、原則として全回

参加可能な方）

- 受講料：一般25,000円、学生22,000円
- スケジュール：①9月2日～3日②9月30日③10月21日④11月11日⑤12月16日⑥2000年1月20日⑦2000年2月17日
- 問合せ・申込み：気候ネットワーク（〒604-8124京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305 TEL. 075-254-1011 FAX. 075-254-1012-mail kikonet@jca.apc.org ホームページ http://www.jca.apc.org/kikonet）

**環境NPO・NGO 活動紹介**

主に関西の環境NGOが集まり、それぞれの活動内容を紹介します。

- 日時：8月26日（土）、27日（日）両日とも10時30分～15時
- 場所：生き生き地球館別館2階研修室（大阪市鶴見区緑地公園2-135、TEL06-6915-5801FAX. 06-6915-5805、地下鉄長堀鶴見緑地線「鶴見緑地」駅下車）
- 定員：50名程度（申込み不要）
- 参加費：無料

【参加団体】

- 8月26日（土）午前（10時30分～12時）  
 ①大阪自然環境保全協会②大阪から公害をなくす会③地球環境関西フォーラム  
 26日午後（13時～15時）①アース基金協

- 会②レイチェルカーソン協会③緑の地球ネットワーク④アジア協会アジア友の会  
 27日（日）午前（10時30分～12時）①オイスカ②グリーンコンシューマー大阪ネットワーク③ストップ・フロン全国連絡会、オゾン層を守る会  
 27日午後（13時～15時）①日本野鳥の会  
 ②気候ネットワーク③環境市民④地球環境と大気汚染を考える全国市民会議  
 ※入・退室は、開始前と昼休みだけ。

**第6回 森林と市民を結ぶ  
全国の集い**

全体テーマは「暮らしと共に築く森づくり」。9月16日の第7分科会「世界の森林・日本の森林」にはGENの高見事務局長が参加予定です。

- 日時：9月15日（祝）～17日（日）
  - 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町3-1）
  - 参加費：一般 5,000円、学生 4,000円
  - 主催・問合せ：第6回森林と市民を結ぶ全国の集い実行委員会（〒181-0013三鷹市下連雀3-41-12-50特定非営利活動法人 森づくりフォーラム気付 TEL. 0422-72-8286AX. 0422-72-8218）
- ※必ず主催者までお問い合わせを。